

環境と人間

サケ学入門

(サケ・マスと人との関わり)

授業概要

サケやマスは世界中で最も広く愛されている魚です。サケは単なる食材や工芸品の素材としての高い価値にとどまらず、そのドラマチックな一生がヒトの心をゆさぶり続けてきました。本講義ではサケ・マスの分類やヒトとの関わり合いの歴史を先ず紐解き、母川回帰の不思議、魚体内の生理的な変化、地球規模での気候変化と資源の変動などの生物学的・生理学的・生態学的な事象を学び、ヒトへの恵みについて歴史や文化的かかわり合いの観点から実学的に学びます。またサケ・マスを通じて市場原理というものを国際的な視点から考察できるようにします。

到達目標

単に「サケ」をテーマにただけでも計り知れないほどの奥深さと背景があることを、いろいろな専門家の講義を受けることによって考えさせ、物事の多様な事象に対して思い込みによらないで自分で思考できるようにします。

成績評価

毎回の授業終了時に、小テスト（授業内容からの設問）を実施、あるいはレポート（授業内容の要約など）を纏めさせ、その内容により10段階（1-10）で評価する。なお、欠席は0点とする。授業毎の評価を100点満点に換算して、全授業の評価を積算・平均し、11段階（A+, A, A-, B+, B, B-, C+, C, D, D-, F）で成績評価を行う。

担当教員 *teacher in charge*

工藤 秀明 他

水産科学研究院 准教授

授業計画

初めにサケ・マスとその仲間たちについて説明し、そして北海道のサケ漁業とふ化事業の歴史について豊漁から不漁の時代、そしてそれを克服するための大事業実施の経過を概説します。

また、サケの増養殖の歴史と新しいバイオテクノロジーの展開について概説します。次いでサケの生態を河川－海洋－河川という3ステージに分け、環境との関わり合いに着目しながらその多様な生存戦略について説明します。

またこの時、サケの体の中ではどのような変化が起こっているか、またどのようなメカニズムで母なる川に帰れるようになるのか、回遊行動を解明するバイオロギング・バイオテレメトリーとはどのようなものか、近年の地球温暖化などの気候変化がサケ・マス資源の変動や魚体の小型化と関係するのか等についても考察します。

一方、文化の素材としてのサケについて、マンガの制作や考古学の現場を例に述べます。そして最後に、新海洋法時代を迎えてのサケ・マスをとりまく国際情勢について概説し、将来展望を考察します。

（順序については、担当教員の都合により前後します）